

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	浅香障がい者会館		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。	●こどもの特性・年齢・関心・その日の体調等に適した活動プログラムへ日々調整し、こども1人ひとりに合わせた支援を提供している。 ●活動プログラムや支援方法は、自立性・協調性・社会性を育てることができるように工夫している。	●こども1人ひとりの参加意欲が上がるように、流行等も取り入れた活動プログラムを提供する。 ●SNS等から効果的な活動内容の情報収集に努め、活動の幅を広げる。
2	●日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解を持っている。	●送迎時の申し送りに加え、利用がない日もメール・電話・HUG(成長療育支援システム)等を活用し、こどもの様子・成長・課題等について日々伝え合うことができる体制を整えている。	●これまで以上に密な連携を心掛け、小さな変化でも伝え合える関係性を構築する。 ●自宅等到着時は、学校等から伝達を受けた内容も含めて当事業所での様子について申し送りできるように努める。
3	●こどもは安心感をもって通所している。	●1日のスケジュールは活動開始時に掲示物を用いて説明しており、自宅等到着まで見通しをもって活動プログラムへ参加できるように工夫している。 ●参加意欲が低いときや辛い様子が見られたときは、個別で話し合う時間を設け、いつでも自分の気持ちを出せる環境を整えている。	●スタッフはヒアリングの質を上げ、こども1人ひとりの気持ちを汲み取ることができるように努める。 ●どのような障がい特性があってもハンディキャップを感じず、楽しく参加できる活動プログラムを増やす。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされているか。	●保護者同士が交流する機会を設けることができていない。 ●きょうだい向けのイベントを開催できていない。	●保護者同士の交流に関するニーズを把握するための調査を実施し、希望が一定数あった場合には、保護者会などの開催を検討する。 ●きょうだい同士の交流に関するニーズを把握するための調査を実施し、希望が一定数あった場合には、家族参加型のイベントなどの開催を検討する。
2	●第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	●第三者による外部評価を行うことができていない。	●第三者による外部評価を検討する。
3	●放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	●地域のこどもと一緒に地域のお祭り等へ参加する機会はあるが、放課後児童クラブや児童館と合同イベント等を開催することはできていない。	●地域のイベント等へ参加した際、地域のこどもとの関わりが生まれるように支援する。 ●放課後児童クラブや児童館と連携し、合同イベント等の開催を提案する。